

※ホームページにも掲載しています

## 1年間、ありがとうございました

早いもので令和7年度が終わります。大門小学校の子供たちは、これまでもこの学校だより「三輪の結 大門っ子の本気」でお伝えしてきたとおり、何事にも「本チャレ」で取り組み、ここぞというときにみんなでぐっと盛り上がり、力を発揮してくれる、とても素晴らしい子供たちだということを感じてきました。これも保護者や地域の方々に温かく見守られ、素直に教職員の指導を受け入れてくれるからだと思っています。

この1年間、本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、本当にありがとうございました。

## 本チャレな卒業式 とても立派だった卒業生&在校生

3月17日（火）快晴のもと、111名の6年生が大門小学校を巣立っていきました。卒業証書授与式では、担任の呼名に対して「はいっ」と大きな声で返事をしました。これまでの練習よりも自信に満ち溢れ、堂々とした態度は本当に立派でした。授与の場面では、私（福山）は一人一人に小さな声で「おめでとう」と伝えました。子供たちは、にっこりとほほ笑んだり、きりっとした顔でくんとうなずいたりしてくれました。

「旅立ちの詩」（呼びかけ）では、これまでの小学校生活の思い出や保護者や地域の方、教職員への感謝の言葉等を、一人一人が自分の言葉に責任をもって大きな声で言いました。また、「絆」の合唱は、大変すばらしく、グッとくる歌詞が感動の涙を誘いました。

在校生の式に臨む態度も大変素晴らしかったです。ちょっと長い式辞でしたが、壇上から見えた在校生は微動だにせず、話を聞いてくれています。在校生の呼びかけも大変立派で、「大門の大空」の歌声は、とても力強かったです。「6年生が卒業しても大丈夫、自分たちが大門小学校を受け継いでいくよ」という自信が伝わってきました。来賓の方々から、「大変素晴らしい卒業式でした」とありがたいお言葉をたくさんいただきました。がんばれ！大門小卒業生。



## 3年 サクラマスの放流 ～ふるさとは命に満ちる～

3月12日（木）3年生がこれまで育ててきたサクラマスの稚魚（ヤマメ）を庄川に放流しに行ってきました。

庄川漁連（庄川沿岸漁業協同組合連合会）の高木さんのお話を聞き、「元気に帰ってきてね」と声をかけながら、冷たい庄川の水に稚魚を放しました。

サクラマスの稚魚は、1年間は庄川に滞在して、1年後の冬に川を下り、オホーツク海を回遊します。その1年後に産卵のために庄川に戻ってきます。しかし、自然とは厳しく、戻ってこられるサクラマスは約0.3%、1000匹に3匹だそうです。

3年生の子供たちは、これまで卵（イクラ）から生まれた稚魚を4ヶ月間、愛情を注いで育ててきました。命のつながりや命の大切さをしっかり学んでくれていると思います。

サクラマスの稚魚ヤマメは、児童玄関のトミヨの左側の水槽にも入れました。小さいけれどヤマメの特徴である模様ははっきりとあります。これからの成長を見守っていきたいと思います。



## 春を告げる大門小学校の花たち

学校の校庭やビオトープの春を告げる植物を紹介します。



コブシ 旧大門町の花です。つぼみの先が割れてきました。白い花が咲きます。



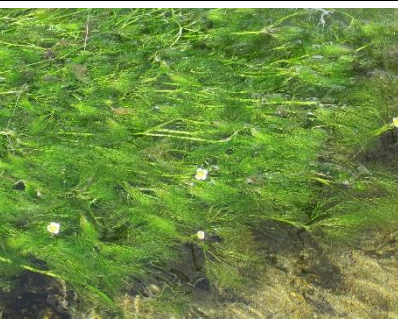
紅梅 ピンクの梅の花です。総合体育館側に紅白で1対あります。



白梅 白い梅ですが、つぼみが少なく、あまり咲いていません。



マンサク ビオトープにある早春を代表する黄色い花です。



バイカモ 春になり小さな花をつけ始めました。



ヒメリュウキンカ 植えていないのにすごく増えています。